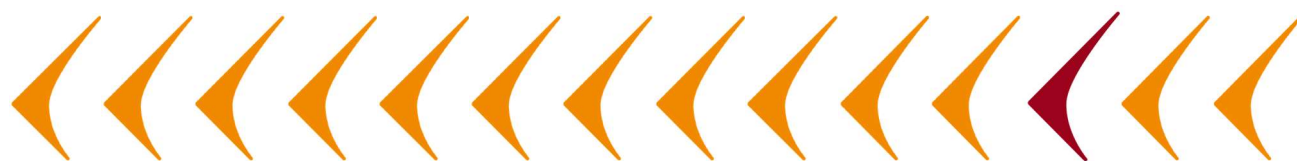


テーマ別パスファインダー



哲学・現代思想のすすめ



✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2024年12月20日

大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LS チーム

I. イントロダクション

＜ 食わず嫌いになる前に

「哲学」「現代思想」この言葉を見聞きするだけで、「なんだか難しそう…」、「どうせ理解できない…」、「小難しい言葉を並べられても頭がパンクしちゃうよ…」と億劫になる人はいませんか。とりわけ「哲学」という言葉は、テーマ性の把握しづらい映画や小説が「哲学的だ」なんて評価されるように、ぱっと答えることが困難な抽象性の高い題材に対して用いられることもありますから、前述のようなイメージを抱くのも無理はないでしょう。しかし、そのような印象は、入門レベルの導入を省略して専門用語にのみ着目した結果、生まれているものではないでしょうか。馴染みやすい挨拶から外国語を学んでいくように、はたまた、簡単なレシピから料理の技術を会得していくように、どんな物事においても、それを始めるのに適した題材が存在します。

このるくぱすでは、主に新書を中心に、哲学や現代思想に初めて触れる人に向けた平易な入門書を紹介します。言葉につきまとっている難解なイメージは一度脇に置いて、哲学や現代思想の扉を叩いてみませんか。

II. 哲学や現代思想を学ぶ意味

＜ そもそも何を学ぶの？

日々暮らしているなかで、「なんとなくモヤモヤするけれど、その正体は何なのか、上手く言葉にできない…」と思うことはありませんか。「このモヤモヤは〇〇が原因だ！」と簡単に割り切ることもできるけれど、そうすると大切な何かを見落としている気がする、周囲の人やネットに答えを求めても、どうにもじっくりこない…。こうした悩みは、大勢の人々の感情や意図が行き来する人間関係(家族・友情・恋愛 etc.)において、特に身近に感じるものではないでしょうか。

このような迷いを見せるとき、あなたは既に哲学の入り口に立っているのかもしれませんが。なぜなら、哲学は「自分の考えをできる限り正確に言葉にする」ことを目指す学問だからです。当然ながら、私たちの思考は言葉にしないと他の人に伝わりません。それどころか、自分一人であれこれ考えを巡らせているときも、頭のなかで言葉を使っています。哲学では、この「思考内容⇒言葉」という変換の過程をできる限り洗練させて、特定の問題に対して自分が考えている答え(真理)を言い表すことを目的とします。

ですから、哲学を学ぶということは、簡単に答えの出せない難しい問題に関する思考のパターンを、先人たちから多数会得することを意味しているのです。豊富な思考の型を身につければ、前述のような「モヤモヤ」に関しても、自分自身で色々な視点から対処できるようになるかもしれません。

(現代思想については、ここでは、起源を 2000 年以上も前にもつ哲学の延長線上にある学問であると捉えてください。以下では、「哲学」という言葉に「現代思想」の領分を広義的に含んで解説し

ています。)

＜ 何の役に立つの？

前述した人間関係の問題を想定してみましょう。誰かの味方をすれば誰かを敵に回す、あるいは不用意な発言をすれば誰かを傷つけてしまうような、絶対的な解法が見当たらない複雑な事態というものは、日常でも起こりうることですよね。多数の思考の型を会得する哲学を学んでいくと、このような問題を様々な視点からとらえ、順を追って論理的に整理できるようになります。

また、多くの文献を相手にするような領分を専門とする学生の場合、哲学を学ぶ過程で習得した思考の型は、先行研究の効率的な読解と批判的な検討にも役立つことでしょう。ある資料は、言葉を用いて作成されている以上、特定の思考のパターンに沿って執筆されています。よって、事前に複数の思考の型に精通していれば、その著者の思考の流れを素早く読み解くと同時に、別の視点からその主張を吟味することが可能になるのです。

III. 入門におすすめの本

以下では、哲学や現代思想に関するおすすめの入門書を紹介します。まずは哲学の入門書から見ていきましょう。

＜ [貫成人（2004）『哲学マップ』筑摩書房](#)

古代から 20 世紀に至るまでに哲学が辿った変遷の主な過程を、著者の分かりやすい解説とともに一望することができます。【外国図-4 階新書 104||260】

＜ [入不二基義（2023）『問いを問う：哲学入門講義』筑摩書房](#)

著者の大学における哲学の講義がもととなって生まれた著作です。上記の『哲学マップ』とは異なり、章ごとにある議題(例：第 3 章「どのようにして私たちは他者の心を知るのか?」)が丁寧な論理のもとで語られる構成となっています。大学の講義レベルの内容が展開されるため、じっくりと読み込む必要はありますが、実際の哲学者がどのように物事を考えているのか、その思考の流れのひとつのモデルを覗き見るのに最適な一冊といえるでしょう。

【総合図-A 棟 3 階 学習用図書 104||IRI】

＜ [藤田正勝（2024）『日本哲学入門』講談社](#)

哲学は西洋で発展してきた思想が中心となっている印象を受けますが、もちろん西洋以外の地域においても、歴史を通じて独自の思想が発展してきました。そうした西洋圏外の思想のなかで、本書は日本の哲学に焦点を当てています。日本における哲学の受容過程のほか、日本の哲学者が西洋由来のものを取り入れながら独自に発展させてきた思想が、いくつかのテーマ(「言葉」「美」「生と死」など)に分類されて紹介されています。【外国図-4 階新書 121.9||211】

次に、現代思想の入門書を取りあげます。

＜ [内田樹（2002）『寝ながら学べる構造主義』文藝春秋](#)

題名の「構造主義」とはいったい何なのか、耳にしたことはあっても、実際のところよく分からないという方は多いのではないのでしょうか。この本を読み解けば、この用語の意味がある程度つかめるようになることでしょう。一つの真理を目指してきた西洋哲学の運動に、「構造」という観点から疑問を呈した学者たちの思想が、著者の明解な言葉で紹介されています。

【総合図-A棟3階 学習用図書 116||UCH】

＜ [千葉雅也（2022）『現代思想入門』講談社](#)

比較的若手の哲学者による、現代思想の明快な入門書です。おそらく、当項目で紹介した本書を含む5冊の著作のうちで、最も親しみやすい文体で書かれているのではないのでしょうか。デリダ、フーコー、ドゥルーズ等々、名前を聞いたことがあっても、難解でとっつきにくいイメージ(事実そうではあるのですが…)を抱かれがちな思想家の考えに、少しでもいいから触れてみたい!という方におすすめの一冊です。【総合図-A棟3階 文庫・新書 089||GS||2653】

IV. 具体的なテーマについて論じている本

続いて、哲学を絡めてひとつのテーマを語る本のなかで、初心者の方でも読み解きやすい筆致と文体で書かれたものを紹介します。

＜ [高田明典（2006）『「私」のための現代思想』光文社](#)

「私」、つまり自分自身とはいったい何者であるのか、どのような意義をもって今ここにいるのか。ときに危うさを感じさせるこの問いに、著者が現代思想を用いて挑んでいます。自身の存在意義に悩む方にぜひ読んでほしい一冊。【外国図-4階新書 114||175】

＜ [内藤理恵子（2019）『誰も教えてくれなかった死の哲学入門』日本実業出版社](#)

この世界に生きているすべての人が決して言葉で語ることはできない「死」の経験を、著名な思想家はどのように考えてきたのでしょうか。宗教学者兼イラストレーターという独自の肩書をもつ著者が、(一般に哲学者には含まれない宗教家や漫画家も含む)「哲学者」の「死」に関する思想を複数取りあげて紹介しています。題名を見て驚く方もいるかもしれませんが、さほど重苦しい文体では書かれていないので、ぜひ自身にない見解を覗き見るつもりで手にとってみてください。

【外国図-4階開架 114||197】

＜ [三木那由他（2022）『会話を哲学する：コミュニケーションとマニピュレーション』光文社](#)

私たちが日々おこなっているコミュニケーションでは、実際に発した言葉自体の意味にも増して、相手に伝わるものがあります。そうした場面において、いったい人と人との間で何が起こり、何が伝えられているのでしょうか。題材が馴染みのある「会話」そのものであること、また、『うる星や

つら』や『ONE PIECE』など、有名なフィクション作品の引用と共に解説がおこなわれていることから、軽快に読み進められるかと思います。

【総合図-A棟3階 学習用図書 361.45||MIK】

＜ [國分功一郎（2022）『暇と退屈の倫理学』新潮社](#)

2011年に出版され、2015年に増補版が出た同書が文庫化されたものです。様々な娯楽で溢れ返り、何かをしようと思えばできることは尽きないはずの現代に生きる私たちは、それでもなお、ときに「暇だ」「退屈だ」と感じ、何もすることがない(ように思える)空虚な時間に苦痛を覚えます。このような感覚の出所はいったいどこにあるのでしょうか。また、真に退屈を感じないためには、どのような行いを実践すればいいのでしょうか。この問題に著者が明快な切り口で挑みます。

【総合図-A棟3階 学習用図書 104||KOK】

＜ [戸谷洋志（2023）『友情を哲学する：七人の哲学者たちの友情観』光文社](#)

本書のテーマは題名にもある通り、ずばり「友情」です。アリストテレス、カント、ニーチェなど、著名な哲学者は、友情に関してどのような考えを抱いていたのでしょうか。本書においても、上記で取りあげた『会話を哲学する：コミュニケーションとマニピュレーション』と同様、『HUNTER×HUNTER』や『NARUTOーナルトー』、『君に届け』などの人気のフィクション作品に絡めて解説がおこなわれるため、哲学に馴染みのない初心者の方でも読み解きやすいことでしょう。

【外国図-4階新書 159||235】

V. 最後に

ここまで読んでくださった皆さんに、約束していただきたいことがあります。ここで紹介した本で得た知識を、誰かにひけらかしたり誰かを説き伏せたりするために使用することは、控えてください。本の言葉をそのまま借りて喋る振舞いは、あなたをその考えに新たに縛り付けてしまうことを意味するからです。自身で答えの出ない問いを考えるとという有益な営みの基盤となる知識として、本で得た情報を大事に扱ってくださるのであれば嬉しい限りです。

このるくばすによって、哲学や現代思想に触れる機会を提供できたのであれば幸いです。

ここでおすすめの本として掲載したもののほかにも、初心者に向けた哲学や現代思想の本は多数存在しています。きっかけは、「なんとなく題名に興味湧いた」、「本の装丁や表紙のデザインに心惹かれた」などの些細なものでも構いません。ぜひ気になった本を手にとってみてくださいね。

【MEMO】

【MEMO】

図書利用のためのヒント

[図書/論文の検索]

論文や Pathfinder に掲載されている図書等を検索するには

【図書・ジャーナル】

- ・外国学図書館各階にある検索端末を利用するか、お持ちのデバイスで検索してください。
- ・その際は、書名や出版年、出版社、著者名、ISBN、ISSN 等を OPAC 検索に打ち込んでください。

【電子ジャーナル】

- ・電子ジャーナルの種別によって学内・学外からのアクセスの可否が異なります。
- ・多くの場合は「附属図書館 HP」→「電子ジャーナル」で検索できます。見つからない場合は、3 階レファレンスカウンター／LS デスクまでお問い合わせください。

[パスファインダーの凡例]

- ◀ 図書名はすべて以下の順に表記しています。（主に論文の参考文献に使われている書式です。）
著者名（出版年）『本の名前』出版社名，翻訳者名（あれば）
- ◀ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と請求記号を記しました。
総合図 → 総合図書館（豊中キャンパス）
生命図 → 生命科学図書館（吹田キャンパス）
理工学図 → 理工学図書館（吹田キャンパス）
人図 → 人間科学研究科図書室（吹田キャンパス）
外国図 → 外国学図書館（箕面キャンパス）
外国図-雑誌 → 直近 1～2 年に出版されたものは 3 階雑誌コーナー、バックナンバーは 1 階書庫
電 → 電子ジャーナル、電子ブック
※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。
- ◀ 外国学図書館を中心に紹介しているため、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。